

札幌医学技術福祉歯科専門学校
学校関係者評価報告書

平成30年10月5日

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

1 はじめに

本年度実施の学校関係者評価委員会において、委員の方々に「平成29年度学校自己評価」に基づき評価していただいた、その結果についてご報告いたします。

委員には事前に「平成29年度学校自己評価」を配付した上で、学校関係者評価委員会でご意見・ご要望を頂戴いたしました。評価していただいた結果に対しては速やかに改善策を講じ、組織的・継続的に、地域社会のニーズに適合した学校運営や教育課程の編成・実施に取り組む所存です。

2 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属
福井 誠一	元北海道札幌東高等学校 校長 元札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長
松本 剛一	社会福祉法人ほくろう福祉協会 理事長
藪 貴代美	北海道言語聴覚士会 副会長 (医療法人明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院)
濱本 龍哉	北海道理学療法士会 職能局長 (医療法人 新さっぽろ脳神経外科病院)
松田 弘	札幌市中央区西第八町内会 会長

3 学校関係者評価委員会開催日時

第1回 平成30年7月5日(月) 17:00~19:00

第2回 平成30年10月1日(月) 15:00~17:00

平成29年度学校自己評価結果に基づく学校関係者評価一覧

札幌医学技術福祉歯科専門学校

自己評価項目		評価値	学校自己評価	学校関係者評価
I 教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材像は適切に定められているか。	4.6	毎年度当初に教育計画を作成しており、その中で定めている。 ※学生便覧にも掲載している。	・学生・保護者への周知は昨年よりも若干改善したが、学内への浸透を含め一層の改善を期待したい。【I-1-3】
	2 社会のニーズ等を踏まえた学園・学校の構想を抱いているか。	4.4	学校教育目標における重点目標を、各学科の目標・実践方針と落とし込んでいる。 また、学校の中期計画の中で、学生確保や学校の将来像を構築している。	
	3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。	4.1	ホームページで公表している。また学生便覧に記載されており、学生には入学オリエンテーションや各種セミナー、保護者には保護者懇談会等で周知している。	
II 学校運営	4 目標等に沿った運営方針が適切に策定されているか。	4.3	学園の教育理念、教育目標等に基づき、学校の教育目標及び教育方針が定められ、各学科の経営計画の中で経営目標、重点目標、実践方針が策定されている。	「II-5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。」および「II-7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。」は共に3と平均値より低くなっている。今後は新しい組織が有効に機能することを期待したい。【II-5、7】
	5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。	3.9	学園ならびに学校組織図は教職員に提示されており、概ね機能していると思われる。 ※教育計画の中に掲載している。	
	6 情報システム等による業務の効率化が図られているか。	4.0	教務事務支援システム(出欠管理、成績処理等)やワークフローシステム(電子決裁事務処理)が導入されており、業務の効率化が図られている。適切な運用について研修会も実施した。	
	7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。	3.9	4部(医療技術、リハビリ、福祉、看護通信)体制、校務分掌3係(総務、教務、学生)により、学科間の連携と協働体制の強化が図られている。	
III 教育活動	8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4.3	ホームページ、パンフレット、掲示板等で公表している。特に職業実践専門課程として認定され、より広く情報を公開している。	・前年度より削減となった項目については、質問文(自己評価項目)を含め内容を精査する必要がある。【III-11、14】 ・「I-11 授業規律を確保し、指導体制の立て直しが行われているか。」→「I-11 授業規律を確保し、状況に応じて指導体制の見直しが行われているか。」 ・「III-14 授業評価の実施、評価体制があるか。」→「I-14 授業評価の体制が確立され、評価が適切に実施されているか。」 ・職員研修や授業連携に関する項目では平成27年度(3.5)より大幅な改善が図られており、教育内容の充実のためにも取組の継続が望まれる。【III-15、16】
	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4.2	各科目において科目系統図が作成されており、修業年限に応じた教育到達レベルが定められている。また学習時間の確保についても法令に則り明確にされている。	
	10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。	4.4	入学式、卒業式、西野学園祭、避難訓練、防災訓練、バスハイク等が適切に企画・運営された。	
	11 授業規律を確保し、指導体制の立て直しが行われているか。	4.2	授業中の注意事項を学生便覧等で周知させ、日直等の役割を与えることにより授業規律を確保している。また、指導の一貫性を保つため学生係からの指導に関する伝達を朝の教職員ミーティング等で実施している。	
	12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか。	4.4	法令改正や関連分野の施設・病院等からの要望、教育課程編成委員会・事業所ヒアリングでの意見、学生状況等に応じて見直しを実施している。	
	13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか。	4.3	学習ならびに校務規定等で基準が明確に定められている。 ※学生便覧	
	14 授業評価の実施、評価体制があるか。	4.4	授業終了後、学生に対し5段階評価の授業アンケートを実施し、そのアンケートはFD・SD推進室で集約・分析され、その結果は非常勤講師含め各教員にフィードバックしている。また、公開授業を年1回(初任者は4回)実施し、他者評価を受け授業改善に役立てている。	
	15 職員の能力開発のための研修が行われているか。	4.3	学園全体の教育技術研修として、1月3日に研修会が開催された。また人事課研修、M4(学科長・マネージャー以上)・S4(主任・シニアマネージャー以上)研修なども適宜実施された。その他、学校には研修費制度があり、個人の裁量で研修先を選択し個々の能力開発を行い、他職員への伝達講習も一部行われた。さらに職業実践専門課程に関する外部の研修会にも学校として参加した。	
IV 学修成果	16 クラス担任は科目の担当と連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか。	4.3	クラス担任は科目の担当と連携を密にし、学生の情報提供や学生からの授業に対する要望事項を把握し、科目の担当者に学生の実態にあった指導方法を依頼している。しかし、学生のレベル差より指導法に苦慮している実態が多々ある。	・本校の特徴である担任制と学生支援体制の充実について、昨年度より0.2ポイント増加するなど評価値にも表れており適切である。【IV-17、18】 ・同窓会の設立と活性化に今後期待したい。【IV-19】
	17 就職率の向上は図られているか。	4.6	担任および学生サポートセンターによる個人面談および保護者懇談会等を実施するなど、就職率の100%維持に努めている。	
	18 退学者の低減は図られているか。	4.2	退学者の数は34名(平成28年度は35名、平成27年度は37名、平成26年度は38名)であった。理由は進路変更が最も多い。退学者数の減少のため個人面談の実施や学生相談室のサポートにより、減少傾向が続いている。	
	19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか。	4.0	教員や学生サポートセンターによる事業所訪問、同窓会や各学会において卒業生の評価の把握をしている。臨床検査技師科、理学療法士科等同窓会活動も本格化してきているが、整備されていない学科もあるため、卒業生の社会的活動に関して十分に把握しているとは言いえない。今後は学園のN'sシート委員会「産学連携・地域事業開発委員会」で西野学園同窓会を設立する予定である。	
V 学生支援	20 学生相談に関する体制は整備されているか。	4.6	クラス担任制をとっており、個人面談を実施。問題があると思われる学生に対して、その都度個人面談を実施。また、学生サポートセンター内の学生相談室と連携して、問題の掌握に努めている。	・学生相談に関しては担任・学科・部全体での相談体制ならびに学生サポートセンターの臨床心理士との連携による相談体制が確立されており適切である。【V-20】 ・学習面 ・教育設備は経年の高も順次更新を進めていることだが、継続した改善が望まれる。【V-25】
	21 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。	4.5	主に日本学生支援機構の奨学金制度を利用。学生の半数以上が利用。また、学園の支援体制として「西野学園 学費支援制度」がある。その他、前年に引き続き、一部公費を使用した「西野学園 特別経済支援制度」による支援を行った。	
	22 保護者と適切に連携しているか。	4.5	入学時および入学後に保護者懇談会の実施。また、出席状況等は長期休業前に送付している。また、学業や私生活で問題のある学生には電話連絡や保護者面談を実施し、適切に連携している。	
	23 卒業生への支援体制はあるか。	4.4	教員や学生サポートセンター職員による事業所訪問の際の卒業生の状況確認、卒業生向け機関紙「あめん」の協定、臨床検査技師科、理学療法士科等の同窓会活動。また「学生サポートセンター」による再就職支援が本格化した。	
	24 ロングホームルームなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか。	4.4	ロングホームルームなどを活用し、学生サポートセンターによる卒業生を中心に就職ガイダンス等を実施している。	
	25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4.2	新しい電子教育機器などの導入はあるが、インフラを含めた教育環境の整備が追い付かない現状もある。しかし、図書館の開設により、自主的な学習に取り組める環境は整ってきており、卒業生の国試対策や研究活動にも利用されている。	
	26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現を促すための対策が整備されているか。	4.0	学生が自己理解、自己啓発、自己実現を促すため、専門職に関する情報の提供や見学実習等により意識を高めているが、十分とは言えない現状がある。	
VI 教育環境	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4.1	施設・設備は指定規則に則り整備されているが、開設年度が古い学科を中心に老朽化が進んだ設備もある。更新計画に基づき、適切に更新を進めて行く予定である。	・教育環境の整備は法令に基づき実施されている。【VI-27】 ・図書館は放課後に満席になるなど活発に利用されている。今後は蔵書数などの一層の充実を努めて欲しい。【VI-28】 ・防災管理に関する体制においては、昨今の災害多発等に備えた非常時対応訓練の必要性も高まっているといえる。【VI-29】
	28 図書館利用の活性化が図られているか。	4.2	開館は平日が9時から20時30分、土曜日は10時から18時まで開館した。なお、国家試験が間近に迫った日曜・祝日も開館された。その結果、想定以上に学生(卒業生含む)に利用されており、座席が満席になる状況も見られた。また、グループ学習にも積極的に活用された。	
	29 防災に対する体制は整備されているか。	4.3	全校学生を対象に6月に避難訓練、10月に防災訓練を実施した。また、教育計画に防災組織および避難経路が記載されている。 ※教育計画	
VII 学生募集	30 学生の募集は適正に行われているか。	4.5	学生の募集は適宜見直しされた募集要項、入学試験実施要項等に則り適正に実施されている。また、平成29年度入試よりAO入試が歯科衛生士科、介護福祉士科で導入された。	・少子化や競合校の増加といった厳しい条件を打開するため、教員による募集活動も今年度より本格的に行われ、その効果に期待したい。【VII-30、31】
	31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4.3	進学相談会、体験入学、学校説明会等の学生募集活動において、教育内容、学校生活、国試合格者、就職状況等に関する事項は正確に参加者に提供している。また、ホームページにも詳細に掲載されている。その他、教員による高校訪問も開始された。	
	32 中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。	4.4	学習により定員充足状況は差がみられたが、中長期的にみて学園の財政基盤は概ね安定している。	
VIII 財務	33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4.3	予算・収支計画は学園本部で策定し、理事会で承認後執行された。平成29年度の予算・収支計画は入学生減少のため、前年度より収入減となったものの、収支は概ね適切な範囲で推移している。	引き続き、健全な財務状況を維持しているといえ適切である。【VIII-32、33】
	34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4.6	適正な学校運営に当たり、法令・専門学校設置基準等は厳格に遵守している。平成29年度は7月と9月に西野学園理事による教学監査が実施され、教務関連書類等の確認・指導を受けた。また、各科目により「自己点検」も実施されており、適正な運営に努めている。なお、7月に進んだ指導調査が、臨床検査技師科・理学療法士科・作業療法士の各科目に「特に指導事項はなかった。」	
IX 法令等の遵守	35 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4.5	「西野学園 個人情報保護方針」が定められており、これに則り個人情報の保護に努めた。また、学生に対しては入学時に学生係作成「学生指導マニュアル」、学生便覧等により指導を行った。また、学外での実習時には実習先と個人情報保護に関する協定を締結している。また、近年SNSなどの利用によるトラブルの未然防止として、警察署員から直接指導を受ける機会を設けている。 ※学生便覧	・法令に基づいた教育活動は、学内の教学監査によっても引き続き担保されている。今後ともコンプライアンス体制の充実が求められる。【IX-34】
	36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4.4	講堂、実習室、視聴覚室、は学科関連団体を中心に研修会・講演等に積極的に貸し出された。体育館等も少年サッカー団やプロボクサーチームにも定期的に貸し出を行った。また、福祉系学科では地域交流特別授業を開講し、多くの地域住民の方に参加いただいた。	
X 社会貢献等	37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4.3	福祉系の学科を中心にボランティア活動は必須となっており、その他の学科も主に関連機関の要請に基づき学校として奨励・支援している。また、平成29年は市内会の協力の下、国道沿いの花壇整備や地域清掃などを実施した。	・医療福祉の分野へ卒業生を送り出すことが最大の社会貢献である。今後は地域や関連団体と連携を図りながら、有用な人材を輩出してほしい。【X-36、37】
	全体平均	4.3	<評価基準>4段階 適切-5 ほぼ適切-4 やや適切-3 不適切-2 (わからない-1)	

4 総括

今年度も前年度と同様に概ね高い水準での教育活動が実施されていることが確認できた。国家試験の合格率及び専門分野への就職が高い水準で維持され、担任や部・学科全体がきめ細かく対応している効果が出ているといえる。

また、新校舎の完成に伴ってオープンした西野学園図書館では、平日は20時30分まで利用可能であり、放課後遅くまで定期試験や国家試験対策の勉強をする多数の学生の姿を目にすることができ、休日には卒業生も学会発表等の準備に活用している。

学園全体としては、「わかる授業推進」、「産学連携・地域事業開発」や「研修・コンプライアンス」をテーマに各委員会が活動を本格化させ、学園内外が連携したイベントの実施や同窓会の設立・再編成も進行しつつある。今後も西野学園が有する人的資源を最大限に活用し、時代の変化に対応した教育を推進していく決意である。

地域と共に歩む学校として、授業や実習における地域との連携を密にし、今後も医療・福祉の分野で有用な人材を輩出すべく学校経営に取り組んでまいりたい。

平成30年10月5日

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長 澤田和宏